

有機性排水処理技術分野 拡大ワーキンググループの実施報告

1. 拡大ワーキンググループの開催概要

- 広く事業に関する意見を集め、より効果的な制度の構築に向けた検討を行うことを目的に拡大ワーキンググループを開催した。
- ワーキンググループの検討員から5名、意見者として5名が参加し、事業や対象技術への要望・意見、実証によるメリット等の向上について意見交換が行われた。
- また、開催に先立ち、環境省HPにおいて意見募集を実施したところ（平成21年10月15日～11月13日）、9件の意見が寄せられた。

拡大WGの実施概要

1. 開催日時：平成21年11月20日（金）10：00～12：00
2. 開催場所：法曹会館 富士の間
3. 議題
 - (1) 環境技術実証事業の概要について
 - (2) 環境技術実証事業小規模事業場向け有機性排水処理技術分野の概要について
 - (3) 本事業及び本対象技術分野への要望・意見について
 - (4) その他
4. 出席検討員：藤田正憲（座長）、岡田光正、中井尚、名取眞、宮腰智裕
 意見者（実証機関）
 大阪府環境農林水産総合研究所（平成15, 16, 18, 19, 20, 21年度実証機関）
 社団法人埼玉県環境検査研究協会（平成19, 20, 21年度実証機関）
 意見者（環境技術開発者）
 アクアテック株式会社（平成19年度実証経験者）
 株式会社セイスイ（平成20年度実証経験者）
 意見者（環境技術のユーザー）
 サトレストランシステムズ株式会社
5. 事前に寄せられた意見：9件

実証機関	2件
技術の製造・販売者（メーカー）	6件
技術の使用者（ユーザー）	1件

2. 主な要望・意見

意見募集結果及び開催時に寄せられた主な意見を、以下に整理する。

(1) 事業や対象技術への要望・意見

- 生物処理の場合、最低3ヶ月間の試験期間が望ましいとされているが、汚濁負荷が安定していると確認できる場合、試験期間をさらに短縮できるよう検討してほしい。
- 汚濁負荷が安定している場合には、定期試験の回数を削減するなどして、手数料負担を軽くすることが望ましい。
- 実証試験の検査方法、分析方法を実証試験場所等に見合う方法に変更できるようにしてほしい。
- 既存のデータについて妥当性が確認できれば、活用することにより手数料負担が軽減される可能性がある。
- 実証試験要領に見合わない新たな技術（新たな実証項目等）に対応できるようにしておく必要がある。
- 試験手数料の一部公費負担を検討できないか。
- 各種申請の簡素化及び複数年度の試験等により、実証機関における長期の技術募集や試験時期の柔軟性を検討できないか。
- ユーザーのニーズとしては、コストの少ない装置による処理を望んでおり、そのためには正しい基準の適用による技術が必要である指摘された。

(2) 実証によるメリット等の向上についての要望・意見

- この事業や技術等の普及方法として、関連団体・業界への発信、自治体への発信等が望まれた。
- 申請者にとってより魅力的な認証は難しくとも、技術の評価や技術開発者の表彰等、インセンティブの付与の検討を望まれた。
- 報告書には数値データが多くわかりづらく、表記の改善等によるわかりやすいものが望まれた。
- 試験結果の公表方法として、ホームページへのわかりやすい掲載、関連雑誌・専門誌等への掲載、ユーザー関連団体での紹介、(環境省による)発表会等、更なる取り組みが望まれた。
- 技術開発者から実証試験に対しては好意的な評価が多かったが、実証によるメリットが重要であると指摘された。実証のメリットとしては、試験に専門家によるアドバイスや評価、試験後の追跡等を望む内容であった。
- より分かりやすい実証試験報告書とするために、報告書に実証試験場所の所有者のインタビュー等を記載したり、より活用しやすい本編と概要版の中間的な報告書があるとよい。